

令和7年3月31日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

き ず な

す 住 み よ い げん き な みどり の さと おお くさ の 郷 大 草 野

「光り 輝け ほたるっ子たち！」 3月14日(金)第78回卒業式

曇り空で少し肌寒さを感じる体育館に、我が子の晴れ姿を記憶と記録にとどめようと、早々と卒業生の保護者の皆さんが椅子に座り、いつになく神妙な面持ちです。開式時刻の9時30分になると、入場口の扉が開き、担任の小野原先生を先頭に、卒業生が1人ずつお辞儀をして進んでいきます。保護者の皆さんは一瞬にしてカメラマンに変身です。体育館内は、お祝いの拍手で、一気に賑やかに、そして暖かさに包

まれていきました。

校長先生は式辞の中で、これまでの思い出とともに、卒業生たちが、最終学年としての自覚とともに、目覚ましい成長の姿が見られたことに驚いたと話されました。卒業生たちは、中学進学後に、それぞれに目指すものや楽しみにしているものがある



でしょう。未来は、不確かで何があるか分からない、という不安な一面もあると思いますが、できるだけ「自分のことは自分でやる！」という姿勢で進んでいってほしいと思います。目の前の一つ一つの出来事を、他の誰かを頼りにしてばかりいては、自分に真の力は付いてきませんし、自分自身でやることで、他人がやっていることの難しさや面白さを理解できるようになると思います。言い換えれば、「自分のことを自分でやる！」と言うのは、「他人を思いやる力を付けること」でもあると思います。

校長先生は、自分のやりたいことを継続して、人前で表現することも大切だと言われました。人前で表現することは、それまでしてきたことの成果、結果を披露することで、自分を肯定し、自信へと繋げてほしいとの思いからだと思います。コミュニティとしては、これまで一緒に行った体験活動への御礼を言ってもらって、大変嬉しかったです。6年生たちが、お別れの言葉を言い始めると、あちこちからすすり泣く声が聞こえてきます。先生方へ目をやると、今年も川島先生が泣いているではありませんか！体育館を出るときに1年生の男の子がひとり号泣していましたが、感受性が強いのでしょうか。この子がどう成長していくのか、楽しみにしていきたいと思います。保護者の皆さん、まだまだ頑張ってくださいよ、子育てファイト！

第78回卒業証書授与式

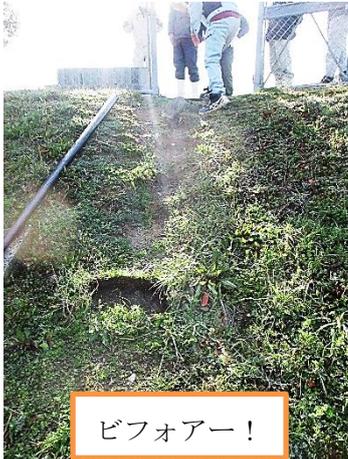


卒業生の皆さん、式のときの感謝の気持ちを忘れないでください！ ご卒業おめでとうございます！！

大草野校区の皆様へ お知らせです。

西九州新幹線 嬉野温泉駅 中野 裕介 駅長 が令和7年4月1日付で本社勤務となります。駅長在職中は、嬉野市のために多方面にわたり、郷土のためにご支援ご協力をいただきました。本当にありがとうございました！新任地でもご活躍くださるものと思います、ずっと、応援しています！

学校の田んぼへの階段を作りました！（3月23日：日）



ビフォーアー！



アフター！

毎年、大草野コミュニティでは5年生と田植えと稲刈りの体験活動を行っています。そんな中で、グラウンドから田んぼに降りる階段が無いので、毎年、大人か子ども達の誰かが滑っていました。特に、去年は雨の中の田植えでしたので、注意喚起をしながらの作業を行ったところでした。

そのうちに何とかしたいと思っていましたが、幸い、6年度の役員の中に階段造りにもってこいの人材がたくさんおられたので、皆さんと協議をしながら、今回、思い切って設置することにしました。最初、16日の予定でしたが雨が降ったので、1週間順延して23日になりました。この日でよかったです、とてもいい天気になって、暖かくもあり、着ていた服を脱いでいくくらいでした。

本当に立派な階段になったと思います。最初、木杭を打ち込んで足場を作る程度の階段を考えていたのですが、「ああでもない、こうでもない。」と話し合ううちに写真のような階段になりました。聞くとところによると、ここを歩いて野球の練習に通っている子もいて、階段ができたことを喜んでくれたそうです。それを聞いてとても嬉しかった、コミュニティのGメンです。



コミュニティの代議員の皆様へ 令和7年度総会のお知らせ

日時：令和7年4月20日（日） 10時から

場所：大草野研修センター 2階 大広間

（代議員の皆様には、後日個別にご案内をいたします。よろしくお願いたします。）

へへ編集後記

『選択肢と試行錯誤』
世の中の色々なものに「選択肢」があつて、一人ひとりがどんな風に考えて、どれを選んでいくか、という行為は人の成長にとっても大切なことだと思います。だから、選択肢が無ければ、試行錯誤をせず、結局、人生で一番の醍醐味を無くし、また成長もおぼつかないことでしょうか。

例えば、子どもは、レストランなどに行くと、食い入るようにメニューを見ます。床に届かない足をばたつかせ、興奮しながら食べたいものを選んでいきます。このとき、子どもの頭の中で目まぐるしく起きている逡巡がとても大切なことではないでしょうか。

たくさん悩みながらも、自身で食べたいものを選んでいく、そんな小さな経験が積み重なって、成長とともに必要な試行錯誤が可能になり、個性も育まれて、自己の確立へと繋がっていくのだと思います。

だから、大人が面倒くさがって、「アレにしないさい、これにしないさい！」と強制していくことは、子どもの成長を大人自身が阻害していることになると思います。

私は、日本という民主主義国家に生まれたことを有り難いと思います。長い一生を生きていく中で、考えを強制されることほど嫌なことはありません。

現在、世界中に「すつとこどっこい」や「あんぼんたん」のリーダーが国を動かしています。

ああいう選択肢を生まなくていいように、子ども達の今後の試行錯誤に期待しましょう。